

第4学年 社会科の実践

1. 単元名 さわやか、すこやか、みんなのくらし
「ごみのゆくえ」(全13時間 本時 13時間目)

2. 単元目標

ごみの処理に関わる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るために欠かすことのできないことや、その対策や事業が計画的に広く他地域の人々の協力を得ながら進められていることを、資料の活用、聞き取り調査、見学などを行って調べ、それらの対策や事業が地域の人々の健康な生活や、良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題・・・子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
中学年ブロックテーマ 「追求する力、仲間と支え合う自分」
・自分の問題をとことん追求する姿 ・仲間と協働して追究する姿

【聴く・話すについての指導】

「話す・聴く」については4月当初から授業の折りに触れ、どういった姿が良いのか確認をしてきている。「相手の方を見て」「聞こえる声ではっきり」などは児童もよく分かって取り組もうとしている。児童にどんな聴き方が良いかたずねると「静かに聴く」という言葉が出てくる。それを「考えながら聴く」という言葉に変え、意識させているところである。自分の意見は話す、友達の意見を聴いても反応が薄く「考えながら聴く」と言う点は、まだまだ取り組んでいる途中で課題は多く残っている。また、「最後まで聴く」というところも取り組んでいるところである。少し話を聴くだけで、意見を言いたくなくなってしまい、好き勝手に話してしまう児童がいるため、そういった時には、説明を一度止めて、最後まで話を遮らないように聴く指導をしている。更に意思表示や自己決定することが苦手な子も多いため、ゆっくり話すのを持ちながら聴いたりしている。発言が苦手な児童には、授業の最後に友達の意見を聞いて、「あ〜なるほど。」という気持ちになれば、それはきちんと考えながら聴いていた証拠だから良いことだと認めている。

【関わり合い・ひびき合い】

各教科で、説明や自分の考えを話す場面の前に、隣の児童とペアになって意見交換をする時間を設けている。説明や自分の意見など答えがはっきりしないものに対する抵抗が大きいため、まずは近くの少人数で会話の延長で話すことで、自分の意見に自信を持てるようにしている。全体での発表だけでなく、生活班や学級を3〜4つに分けて少し人数の多いグループでの発表の場を設けてきた。話し合いをするときには、机の向きを変えたりすることで、意識を友達に向けるなど場の工夫も行っている。

日頃から「学校で学ぶ意味」として、自分の知らない考えに出会う、自分の考えを確かなものにする…そのためにも、自分の意見をみんなのために伝えていくことが大切であることを伝えている。その後は、友達の意見に「え、でも…」と反論したり、「〇〇さんと同じ。」など同意したり、話し合いをつないでいく言葉が出てきて、響き合う姿が見られてきている。しかし、分かっている時間経つと薄れてしまうので、繰り返し説明して、取り組んでいるところである。

4. 単元と指導について

【単元について】

本単元では、児童の身近にある「ごみ」について考える初めての学習になる。自分たち毎日何気なくだしているごみについて、深く考え、分別をしたことのある児童は少ないだろう。なんとなく家族がごみを分別しているのを見たり、手伝ったりしたことがある児童は、「ごみは少なくした方が良い。」と聞いたことがあるかもしれない。しかし、それはどうしてなのか、自分たちがどのくらいのごみの量を出しているのか、どんな種類のごみを出しているのかなど、深い問いをもって考えたことはおそらくないだろう。普段、何気なく見ている社会事象に

目を向け、自分の生活と関わりから、自分の事としてごみ処理の問題について考えさせたい。

ごみが多いことで、どんな苦労や困難があるのかじっくり考え、本当に自分たちの生活に立ち返ってごみについて学習を深めていきたい。

ごみの減量化は小田原市に限らず日本全国、世界中での課題である。ごみを少しでも減らそうと様々な工夫や呼びかけがされている。本校でも、社会科や総合的な学習で学習してきた上級生たちが分別ごみ箱を作って各教室に設置したり、紙ごみをいれる袋を作って配布したり、ポスターで給食の残を減らそうと一人一口運動など多くの取り組みを行ってきている。

しかし現状では、分別の徹底が為されておらず、いろいろなごみが混ざった状態でごみが出されており、ごみの量も減っているのか、著しい成果があがっているとは言い難い。

このようにごみの学習をすることで、社会の一員としてごみ問題を自分事として捉え、解決への必要感を持たせ、「自分たちにできるごみの減量化」を考えることによって、自らもごみを適切に分類し、再利用や物を大切にし、ごみの減量化に協力しようとする態度を育てることが出来る単元であると考ええる。

【指導について】

ごみの学習の導入として、「ごみの量ランキング」と題したランキングを提示するところから入る。最初に県名とごみの排出量を隠しておく。神奈川県が上位だから喜ぶところだが、ごみが多いためワースト3位であることに気づき驚く子や、汚いだとショックと受ける子もいるかもしれない。反対に、ごみが多く運ばれてくるということは、県内はきれいに掃除がされている証拠であり、悪いことではないかもしれないと発想を転換させて考えることで、これからの学習の足がかりとしたい。「ごみは少なくした方が良い。」と、聞いたことをそのまま言う児童もいるが、「なぜ？」を突き詰めていくと、きちんと説明できる子はいないだろう。そこで、「どうしてごみは少ない方が良いのか」を調べ考えていく。その中で、ごみ収集の人の苦労や、お金がかかること、物理的な問題点、環境におよぼす悪影響など様々な問題点がうかびあがってくるだろう。たくさんの絡み合った問題点こそが、児童一人ひとりが、自分たちの未来のために「なんとかしないといけない問題」として、切実に感じてくるだろう。このままではいけないという思いから「ごみを減らさないといけない。」という、どういう取り組みをすれば良いのか、初めて自分たちの問題となるだろう。すでに知られている、ごみの分別、再利用や修理、リサイクル、物を買わない、使わないなどが考えつくだろう。しかし、本当に今の自分にできる事は何があるのか、他人任せではなく、自分の生活と直接結びつけて考えさせていきたい。学習してきたことを基に、更にどんな取り組みができるかを考え、取り組んでいこうという前向きな気持ちで一度学習を終える。今後は、分別をしようとして声があがると考えられるので、教室内に置いてある紙やプラスチックごみの箱をもう一度見直し、活用していくことを全体で確認するなど、無駄をなくしていくことなど、子ども達とできることを取り組む約束をし、前向きな気持ちで一度学習を終わらせる。その後しばらく経ってから、クラスのごみ箱を調べてみる。分別がきちんと行われず、まだ使えるような紙なども教室のごみ箱にそのまま捨てられて、きっと衝撃的な結果になっているだろうと予測する。前時に「これからは〇〇に取り組んでいく。」とか「これからは気をつけて…」など書いたり、意見を言っていたりしたにも関わらず、できていない衝撃があるかもしれない。そこで、本当に「ごみを減らすために自分たちにどんなことができるだろうか。」より深く考えていこう。1回目と変わり、「そんなことをしても無駄だ。」「変わらないよ。」という批判的な意見も多いかもしれない。それでも、「しないよりは…」、「言い続けていこうよ。」「声をかけていかないと悪くなるだけ。」という意見がぶつかり合い、本当に自分に何ができるかを一人ひとりが真剣に向き合い考える姿をひびきあう姿とし、児童の解決したい問題としたい。

本時では、児童の中には変わらないとあきらめてしまう子も出てくるかもしれない。そうした中でも、一人ひとりの小さな行動の積み重ねで、ごみを減らしていかなとイケないという前向きな気持ちで締めくくれるようにしたい。

単元目標	・廃棄物を処理する事業を調べることを通して、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや生活環境の維持と向上に役立っていることに気づく。 ・処理場の見学や、資料、ごみ処理に関わる人の話からごみ処理についての問題点に気づくことができ、自らも廃棄物の適切な処理や再利用に協力しようとする態度を育てる。
------	---

3年の社会「町たんけん」
4年の社会「水のゆくえ」
総合的な学習「ごみ」

① ごみの何についてのランキングか考えてみよう。(オリエンテーション)

・t? ・重さだ ・ごみの量に関係する何かだ ・東京はごみが多そう ・ビリは鳥取か ・下は中国(四国)地方だ ・下の方が数が小さい ・分別をよくしている県とか。 ・ごみが多い県ランキングかな ・東京が1位だ ・ごみが多くてきたないランキング ・神奈川が3位か... ・下が1位!? ・上にいるってことは45位! ・神奈川は悪い! ・東京の方が悪い! ・ごみの量が多いって町がきれいってことじゃない? ・ごみは多い方がいいってこと? ・少ない方がいいよ

グラフの読み取りや、資料の読み取りで得た情報は全員で共有する。

「ごみの量少ない県ランキング: 順位・量(t)を隠したものを提示する。」

② どうしてごみは多いとだめなの?

・ごみを燃やすと二酸化炭素が出るから ・空気がよごれる ・地球温暖化になる
・集めるひとが大変そう ・ごみをすてるのにお金をはらってるから ・もったいないから

ごみ処理場にもっていくごみが多いほうが町のごみは減ってるわけでしょう...よく考えるとなんで少ないほうがよいかわからないな...

③~⑦ どうしてごみは少ない方がいいのか 調べてみよう

・「わたしたちの小田原」に載ってた
・ネットで調べたい ・コスモスに本があるかな ・家の人に聞いてもわかるかもしれない

空気がよごれる

・CO₂が出て、環境破壊につながる

体に悪い

動物のすみかなくなる

森がなくなる・しげん

・紙や割り箸などの使いすぎで木が切られて減っていく

資料は大切なところをメモするようにする。絵など多いときにはコピーで済ませるようにする。

人の苦勞

・ごみ収集車にたくさんの量を集めるのは大変
・ごみは重いし、くさいから大変
・小田原市内を全部まわるのは大変

お金

・燃やすためには燃料をつかっていてお金がかかる
・働く人が多いとお金がかかる

しせつ

・ごみ処理場がいっぱいになる
・使いすぎて古くなる
・埋め立て地がなくなる

ごみ処理には多くの人が関わっていることや、地域の人々が努力や工夫をしていることを押さえる。

このまま生活して、ごみを出し続けると大変なことになるんだ。やばいぞ。ごみは少ないほうがいい! ごみを減らしていかなないと!

・こままじゃ、やばい! ・ごみ減らさない! ・リサイクルすればいい!
・リサイクルショップにもっていけばいい ・ゴミで工作すればいい(ゴミで工作してもまたごみになる! ごみは減らないよ!) ・ティッシュを使わないようにしましょう!(そんなの無理だよ) ・ティッシュはリサイクルされるから使ってもいいよ ・ごみを減らす方法が分からない

⑧~⑪ 自分達のごみを減らそう! 減らす方法を調べてみよう

5R

Refuse (不要なものはもらわない)
Reduce (ごみを減らす)
Reuse (再利用する)
Repair (修理して最後まで使う)
Recycle (再び資源として利用する)

コンポスト

・生ごみや枯れ葉などでたい肥をつくる。

ごみの分別

・リサイクルできるものを選ぶ

今までの学習をもとに根拠をもって話し合うようにする。

⑫ ごみは分別できているのかな?

・うわ、きたない! ・くさいよ ・ごみの量おい!
・この紙まだ使えるじゃん ・ビニールが捨ててある!
・分別していないの誰だよ ・このままじゃやばいよ ・なんで分別しないんだろう

これからごみを減らすのに、きちんと分別していくのが大事だ。これからは分別して捨てていこう

ごみの軽量化(分別)を具体的に呼びかけたり・運動していくのは「総合的な学習」でのごみの活動へとつなげていく。

⑬ちゃんと分別するにはどうしたらいいのかな(本時)

ごみ箱

・分別がもっとできるように大きなごみ箱を作る
・ごみ箱を増やす
・裏紙がつかえる箱を置く

呼びかける(張り紙)

ポスターで分別をよびかける

声をかけあう

・お互いに声をかけあおうよ
・注意しあう

一人ひとりが気をつける

・やっぱり自分で気をつけるのが一番かも。
・一人ひとりが気をつけていかなないと、取り組めないんじゃない

△それができなかったから、今困っているんだよね

△ごみ箱をふやしたごみがふえる。
△ごみ箱ばかりあってもどうか...

△あっても見ないと思う
△すぐ忘れられるよ

△聞かない人もいる

・繰り返し声をかけて、忘れないようにしないといけない。△その時は意味があっても、またすぐに忘れていきそう。

1組だけじゃなく他のクラスにもお願いして分別していこうよ

6. 本時について

6 本時について

(1) 本時目標

○今までの学習を思い出し、「分別」の大切さを更に確かなものにし、分別のために自分たちにできることを考えることができる。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
「きちんと分別するにはどうしたらいいか。」 ごみ箱 ・分別用の箱を大きくする ・ごみ箱の数をふやす ・分別を細かくわけ ↑↓ ・ごみ箱をふやしたらごみがふえる ・ごみ箱だらけでいやだ ポスター ・ごみ箱の前にポスターをはる ・忘れないようにする ↑↓ ・あっても見ない ・すぐはがれて、わすれちゃうよ 声をかけあう ・分別していない人に注意する ・ごみをすてる時声をかける ↑↓ ・聞かない人もいよ ・けんかになるかもしれない 一人ひとり ・自分で気をつけるようにする ・みんなで気をつける ↑↓ ・それができないから困っているんだよ ・無理だと思う ○最後に自分の、考えをノートに書く	・前時までの学習を振り返り、「ごみの分別」の大切さを確認する。 ・自分の考えを読み、近くの人と話し合うようにする。 ・批判的な意見のつぶやきも認め、取り上げていくようにする。 ・「分別」のために自分たちにできることを話し合う中で、再利用や適切な処理に協力しようとする前向きな姿勢が持てるようになる。 評価【思・判・表】 ・それぞれの取り組みにもマイナスな点もあるが、地域の一員として、未来の地球のために小さな取り組みが必要であることを理解し、再利用や適切な処理に協力しようとする考えが持てる（発言・ノート）

7. 実践を終えて

本単元の導入から、「ごみの量ランキング」から、「ごみは多い方が良いのか、少ない方が良いのか。」を考えていった。すると、予想に反して児童は「ごみは多い方が良い。」という意見が多く、理由としてはごみの量が多ければ街はきれいであり、人々の生活が豊かである証だという考えが多かった。

その後の調べ学習では、ごみが多いことでの環境への悪影響や、ごみ処理場の現状を知るにつれ「ごみは少ない方が良い。」に意見が変わり、それと同時に、自然と「ごみを減らさないといけない。」という考えになっていた。そして、子供達から「自分達のごみを減らそう」という言葉と、方法が挙がった。最初は「ごみを出さない。」「ティッシュを使わない。」など極端な方法があがっていた。そこで、実際にどうやってごみを減らしていけるのか、いろいろな所で取り組まれているごみの減量の方法を調べていくと、5Rや分別が良いことを知った。すると、教室内でもできる取り組みとして多くの子が「分別」に取り組んでいこうと、学習の最後に書いていた。

ここで、分別がどうしてごみを減らすのに良いのか、きちんとおさえたことが本時での、自分の事として考える原動力になったと思う。さらに、現状を調べる際に、カラー写真や映像を直接見せることで、もっと切実に地球の危機を感じ、切羽詰まる問題になっていったと考える。

このごみについての問題は、学習の終了とともに終わるものではないので、今後の学校生活の中で子供が意識をしてごみを減らそうと少しでも考え取り組めた時に、本当の意味でこの学習の成果が分かるのだと考える。そして、意識が薄れた頃にポスターなどの呼びかけで取り戻すことの繰り返しで、これからの社会を少しでもより良くしていこうとする姿を大切にしていきたい。

【成果と課題】

話し合いをするための場づくり、机を端に寄せ椅子を中央に向けて配置し間隔をつめて座らせた。こうした席の配置は良かったと思う。子供同士の距離が近く、互いのつぶやき声が聞こえた。また、話し合いに参加せざるを得ない状況になった点も良かった。

子供の意見に他の子が「でも…」など反応をしていた。しかし、そうした中で同じ児童ばかりの発言に偏ってしまった。要因としては、方法論になってしまい、自分の事の取り組みとして考えきれなかったことがあげられる。

「分別ができなかった」ことに対しての原因をしっかりとおさえ、その原因に対してどういう対策が考えられ

るのか、焦点化し、反対意見を全体に返し立ち止まって考えていく時間を設けると良かった。

子供の言葉で説明や他の子の補足をさせる中で、既習の言葉や内容の言葉が出てくるように話し合えると良かった。その手立てとして、子供の思考の流れだけをまとめたものと、その途中で調べたことをまとめたものを、別々に掲示すると良かった。

教師の出所として、最後にまとめてしまうのではなく、子供の感想の中の言葉でまとめていけるようにしたかった。本時の反省として、子供のつぶやきに対して反応が全体に広がっていくように、日々の授業の中でも行っていきたい。この反省は、年間通しての学級の反省点とも言える。

この学習の後に、児童が分別を意識していることが分かるようになった。捨てる前に分別が分からないと「これは何ごみかな。」と疑問をもっている姿を見かけるようになった。こうした発言も成長した姿の一つだと感じている。一人ひとりの取り組みは小さいけれども、その小さな行いが大切だと取り組んでいく姿が、この学習での一番の成果だと思う。